

臨床データ利用のお願い

豊田厚生病院では、以下の研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることを希望されない場合など、お問い合わせがありましたら以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

突発性難聴におけるHBO（高気圧酸素療法）の有効性と予後因子の検討

2. 研究責任者

豊田厚生病院 診療協同部 臨床工学技術科 中前 健二

3. 研究の背景・概要

突発性難聴は、原因不明の通常片耳に突然の感音性難聴(※)を起こす疾患で、罹患者は年々増加傾向にあります。治療としては多くの施設でステロイド治療が用いられ、これに加えて循環改善剤、星状神経節ブロック、鼓膜内ステロイド投与、高気圧酸素療法（HBO）などがありますが、突発性難聴におけるHBOは設備の問題から全国的には5%程度の症例にしか施行されていないのが現状です。突発性難聴に対するHBOの有効性は賛否両論ありますが、当院では突発性難聴に対するHBOを積極的に行っており、聴力改善効果は60%~65%と一定の効果があることが示されています。しかし、HBOを施行したにも関わらず聴力が改善しない症例もあります。一般的には年齢が若く、発症からHBO導入までの期間が短い方が予後良好とされていますが、要因は未だ明確になっていないのが現状です。そこで下記の3点を目的として本研究を行います。

- ①突発性難聴患者におけるHBOの聴力改善効果を明らかにすること
 - ②HBO早期導入による突発性難聴患者の聴力改善効果を明らかにすること
 - ③突発性難聴患者の予後因子を明らかにすることで、HBOの治療回数・計画へ反映させること
- (※) 感音性難聴：内耳や聴神経など感音器と呼ばれる部分の障害によって起こる難聴

4. 研究の方法

2014年1月1日~2016年12月31日にHBOを施行した突発性難聴症例を対象とし、HBOの有効性と聴力予後に影響を及ぼす因子について検討します。

①対象となる患者さん

2014年1月1日~2016年12月31日までに突発性難聴でHBOを施行した症例

②使用する資料等

電子カルテの情報を元に、下記の情報を調査します。

- 1) 年齢、2) 突発性難聴発症から治療開始までの期間、3) 眩暈の有無、4) 聴力検査での重症度、5) 聴力検査の障害のパターン（低音・高音障害型）

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする医学系研究に関する倫

2017年5月2日 Ver.1

理指針」など各種法令に基づいた院内規定を守ったうえで管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

豊田厚生病院 診療協同部 臨床工学技術科 中前健二

電話：0565-43-5000（代表）